

受講番号 19062 学校名 三里中学校 氏名 上田 知加

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 73 名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon English Course 3

クラスの様子・特徴

学校生活は落ち着いており、全体的に素直で授業中も真面目に受ける姿が見られる。宿題である本文写しや単語の意味調べも80～90%の生徒がやれているが、受身の生徒が多く、積極的な生徒が少ない。

問題の確定

分かる授業を心がけ、生徒の学習意欲を伸ばし、生徒が生き生きとした授業が受けられるような授業作りを目指す。

予備調査

A 授業の観察

真面目にがんばろうとする生徒が多いが、受身の、発音の声も小さい。

B 生徒による授業評価

アンケートの結果、80%以上の生徒が英語の授業は、まあまあ好きか、好きになっていて、肯定的な生徒が多いが、20%の生徒は嫌いであり、あきらめムードになっている。しかし、ほとんどの生徒が、授業には意欲的に参加すべきであると考えている。

C 学力データ

1学期中間・期末テストの結果から、平均点は約59点。観点別では、表現する力が弱い。

リサーチ・クエスト

生徒が楽しく意欲的に英語学習に取り組み、大きな声で音読するにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

warm-upとして、その時習っている単語や、簡単な会話を確認し、読み方がきちんと理解できれば、自信もでき、スムーズに授業に入り、分かるという意識も芽生え、英語学習への動機づけになるのではないかと。

実践1

①words and phrases の表の作成 ②授業の最初に行う ③英語を見ながら教員の後をリピート(読み方の確認) ④日本語を見ながら教員の後をリピート(英語は隠しておく) ⑤日本語を見ながら1分間で英語をどんどん言っていく、スピーディーに(言えた数の確認) ⑥言えた数の記録をしていく ⑦今日よりは明日の記録が良くなっていくように励ます

検証1

アンケートの結果から、効果がでていると答えた生徒は80%。そう思った理由は、毎時間繰り返す事により効果的に早く単語や発音が覚えられるようになった・テスト(単語)の点が上がっている・頭に入ってくる・長文を読む時も楽になる・発音や意味がよくわかる・読みがすぐ出てくるのでスペルがなんとなく書ける、があげられている。単語の定着でやる気が伸びているように思うが、まだ全体の中では、大きな声が出せていない。

仮説2

教科書の本文読みの時に、イントネーションの印があったら、英語独特のリズム感が身につく、音読の楽しさもわかり、声も大きくなるのではないかと。

実践2

①教科書のイントネーションの載ったプリントの作成 ②教員はイントネーションを意識して音読。その後を生徒が同じように意識しながら繰り返す。

検証2

アンケートの結果から、効果がでていると答えた生徒は50%。その理由は、発音や抑揚が身についた・発音が良くなった・本文の大意を確認してからやるので、理解が深まった・熟語や文章、用法を覚える・本文(長文)を読み取る力ができた・頭の中に本文がのこっている等である。内容をつかみ、正しい英文を繰り返し聞き、正しくまねて発音していくことは、全体理解につながり、学習していく意識につながったと思った。

仮説3

英語を聞く機会を増やすことにより、リスニング力を高めると、音読力も高まるのではないかと。

実践3

①CDリピーターの活用 ②DVDによる音読 ③本文の説明や指示等で、できる限り英語を使う。 ④ALTの授業を通して聞く力を養う。休み時間等の時間の活用。 ⑤シャドーイングの活用。

検証3

定期テスト平均点1学期59点から2学期67点の上昇。アンケート結果→シャドーイングの効果を感じた生徒は70%。理由は、リスニングの力がつき、本文が読み易くなり文や単語を覚えるようになった・英文を見ずに暗記する力がついた・集中力がついた等。今まで学習した事がなかった方法での練習に始めは戸惑いもあったが、出来始めると、集中し聞き取り、繰り返す楽しさ、またそれが出来た時の喜びにつながったようである。

研究の成果

自分がアクションリサーチをとおして、生徒の声を聞き、よりよい活動に改善しようと工夫することが増えた事が一番の成果ではないかと思う。また生徒の意識も少しずつではあるが高まった。そして生徒達に活動をさせるなかで、それまで苦手意識を持っていた生徒も、意欲的に取り組む姿が見られるようになったなど、今まで以上に授業の活性化が見られた。 words and phrasesやイントネーションの表、また機器の活用やシャドーイング等各種の実践により単語・熟語・文の基本的事項の確認や正しい発音が理解できそれが文全体の理解へとつながっていった。また各取り組みの反復練習がそれぞれの定着を計る事につながった。またその事が基礎学力の定着を生み、その結果定期テストの平均点の向上や学習に対する意欲へとつながっていったと思われる。

今後の授業改善の課題

大きな声で音読については、まだまだ出来ていない。アンケートでも、大きい声では、1学期、「はい」26人が17人に減少。ただし授業は好きかに対しては、「はい」17人から27人に増加。今回の各種の実践の取り組みには、生徒の良い評価があるので、現在は発展途上の段階であると踏まえ、取り組みを継続し、音読を高めていけるように実践したい。また、自分自身もこれが始まりであると捉え、日々自己研鑽につとめていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-847-0291